一般社団法人日本看護研究学会九州・沖縄地方会

ニュースレター

2021 年 10 月

日本看護研究学会
九州・沖縄地方会事務局
第一薬科大学看護学部
姜旻廷　竹井千里
〒815-8511
福岡市南区玉川町 14
電話：(092)559-7331（代表）

会員の皆様へ

一般社団法人 日本看護研究学会 九州・沖縄地方会会長　長家　智子

新役員となって初めてのニュースレターの発行となります。開催にあたってはいろいろな意見が合ったオリンピックでしたが、選手達の活躍で感動をもらえました。その反面、新型コロナ感染症患者は増え続け、ウイルスと付き合いながらの日常が当たり前になっています。

楠葉前会長が、昨年のニュースレターで「新型コロナウイルス感染症の流行は、我々に与えられた試練なのかもしれません。」と述べられています。来年には終息して欲しいという願いは叶わず、第 3 波、第 4 波、第 5 波と緊急事態宣言とまん延防止法の繰り返しで、会員の多くの方々が新型コロナ感染症と向き合い、高い意識をもって日々奮闘されていることと思います。

病院や保健所など新型コロナ感染症患者に向き合っていらっしゃる会員の皆様には、ただただ感謝するばかりです。教育現場では、対面授業や臨地実習の制限により、オンライン授業が中心となり、その準備・ 運用等で多忙な日々を過ごされ、学生の看護実践能力をどのように身に付けていくのかさまざまな工夫をされている会員もおられることと思います。会員の皆様のご苦労を心よりご拝察申し上げます。

さて、日本看護研究学会九州・沖縄地方会（以下、地方会）では、毎年学術集会を行っていますが、昨年は初めてオンライン開催となりました。そのときのことについては、学術集会長の中嶋恵美子氏にまとめていただきました。

また、例年ならばニュースレターには、九州・沖縄地方会で初めて発表した会員の方に、学術集会に参加しての感想などを寄稿いただくのですが、先の事情でそれも叶いませんでした。そこで、今回は地方会の役員に初めて就任された 2 名の方に、寄稿いただきました。学術集会報告と合わせて、是非ご一読くださいますようお願いいたします。

本年度の学術集会は、久留米大学の三橋睦子氏を学術集会長として、来年 1 月に予定されています。こちらの案内についても掲載しておりますので、ご確認頂きますようお願いします。新型コロナ感染症による移動制限のため、ほとんどの会議や学会はオンラインとなっていますが、この頃までにはワクチン接種が進み対面での開催ができ、皆様にもお会いできるのではないかと考えております。

最後に、事務局も初めてのことが多く慣れないことばかりで、会員の皆様にご迷惑をおかけしているかもしれません。何かありましたら、事務局一同、3 年間頑張って参りますので、何でもお知らせ下さい。会員の皆様、どうぞよろしくお願いします。

＊＊＊　**事務局より**　＊＊＊

◆　2021 年 4 月 1 日より事務局が変更になりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

◆　ニュースレターは紙媒体を廃止し、ホームページ上に掲載することになりました。いつでもホームページにアクセスし、ニュースレターがご覧いただけます。

「コロナ禍における看護教育」

沖縄県立看護大学　成人保健看護領域
赤嶺　伊都子

2020 年 1 月に、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ感染症）によるニュースが世界に発信され、あれから 1 年半が過ぎた。新型コロナ感染症の世界的な感染拡大により人々の生活様式と教育環境に大きな変化があった。私が所属する大学でも新型コロナ感染症対応として遠隔教育や学内実習への切り替え等が議論され、Office365 の Teams や Zoom など ICT を活用した会議、講義・演習・実習方法の対応が迫られた。短期間で ICT 機器を用いた遠隔授業に関する膨大な知識（カタカナで聞き慣れない言葉が多く、理解するのにとても苦労した）、技術への対応や、3 密（密閉・密集・密接）を避けた講義、演習、実習方法の検討など、とてもストレスフルな経験をした。学生にとっても、遠隔授業への対応としてパソコンやネット環境の整備、慣れない画面上での授業、学生間の交流や活動が制限される環境の下で、不自由や不安を抱えた学生生活を送っていたことでしょう。

従来の対面授業では、学生が主体的な学びを促すアクティブラーニング等を取り入れた授業の工夫・改善を行った。ところが、コロナ禍においては、感染対策と学生の安全な教育環境の確保の面から、ICT ツールを活用した遠隔授業を導入することになった。これまでとは異なった授業方法の工夫や改善、リアリティーのある遠隔演習、学内実習、遠隔実習など、ICT を活用した新たな教育方法の開発が求められている。また、ICT 活用においては、これまでよりも個人情報の取扱や著作権法上への配慮が、一層強く求められている。

新しい生活様式が求められる中で、新型コロナ感染症の脅威から解放され、安全・安心な教育環境で活動ができるようになることを祈念する。

「これからの研究活動について」

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科　保健学専攻看護実践科学分野
黒田　裕美

私は長崎大学の研究休職制度を利用し、2019 年 8 月末から 2020 年 6 月まで、研究や看護学教育を学ぶために米国ニュージャージー州ニューアークにある大学に留学しました。研究テーマとしているダウン症者の睡眠支援について学ぶ機会を得るとともに、学生らと交流しながら看護学教育についても学びました。滞在していたニューアークはニューヨークから電車で 20 分くらいのところにあり、通勤や通学、買い物などでニューヨークとの往来が多い地域です。2020 年 3 月中旬に COVID-19 感染拡大のためロックダウンとなり、大学の研究室も閉鎖されました。全ての活動が困難となったことから、予定していた留学期間を短縮し帰国することとなりました。

「It's up to you（あなた次第）」。これは留学先でお世話になっていた先生からよく言われた言葉です。私は迷惑をかけたくないという思いから、やりたいことがあるときに「これをすることができますか？」と聞いていました。すると、いつも「It's up to you」と返ってきたのです。これは相手に「できるかどうか」の判断を任せるのではなく、私が「やりたいかどうか」が大切であり、私自身が判断するということです。私が「やりたいこと」を伝えると助言を下さるだけでなく、専門家を紹介してくれたりその場所に連れていってくれたりと様々な支援を頂きました。この経験は目標を明確にすることや目標達成のために行動を起こすこと、一人で問題を解決できない場合は誰かに助言をもらうことの大切さを再認識した出来事でした。現在はコロナ禍で思うように研究活動ができないこともありますが、「It's up to you」という言葉を思い出し、これからも研究活動を続けていきたいと思います。

一般社団法人 日本看護学会 第 27 回九州・沖縄地方会学術集会のご案内

- ◆ 学術集会長：熊本保健科学大学　荒尾　博美
- ◆ 会期・会場：令和４年 11 月 26 日（土）・熊本保健科学大学
- ◆ テーマ　　：よりよい看護実践を目指す科学的探究

一般社団法人日本看護研究学会
第 25 回九州・沖縄地方会学術集会を終えて

学術集会長　中嶋　恵美子

日本看護研究学会第 25 回九州・沖縄地方学術集会を、令和２年 10 月 31 日～11 月 15 日の期間にオンデマンド方式で開催致しました。会員の皆様をはじめ、多くの皆様のご支援のもと、82 名の方にご参加頂き、終了することができました。改めて、皆様に心より御礼申し上げます。

第 25 回学術集会のメインテーマは「ダイバーシティ時代の看護研究」と致しました。本テーマに掲げた「ダイバーシティ」、すなわち、多様性は外見的・内面的な違いを指しますが、私たちは、その「違い」こそが、新たな発想やアイディア、価値観を生み、看護に寄与する研究を発展させるものと考えました。 その「違い」が、これまでの枠組みを超えて創り出す、持続可能な、新しい看護研究の在り方を考えていく機会とすることを目指して企画致しました。

シンポジウムでは、「ダイバーシティが拓く研究ネットワークの構築」というテーマで、経済学、スポーツ科学、そして看護学の分野で協働的研究を実践されている阿比留正弘先生（福岡大学経済学部教授）、上原吉就先生（福岡大学スポーツ科学部教授）、塚原ひとみ先生（福岡大学医学部看護学科教授）の 3 名にご講演頂き、その様子をオンデマンド配信致しました。ディスカッションでは、それぞれの専門性について理解し、それぞれが得意とするところを活かしていくことが協働的研究の強みであり、社会貢献に寄与できる研究につながることを共有しました。さらに、看護研究には今後、いろいろな分野との学際的・協働的研究の可能性があることにも気づきました。

スペシャルセミナーでは、「南極における研究と生活」というテーマで、林政彦先生（福岡大学理学部教授）による南極越冬隊としての３度のご経験に基づく、南極大陸昭和基地での生活と研究についてご講話を頂きました。何万年も昔の氷などの採掘や南極の大気の観測から、今の環境を読み解くという壮大な研究のお話でありながらも、普段知ることができない楽しそうな南極大陸昭和基地での生活の様子や美しい景色の写真などのご紹介に時間を忘れるほどでした。

また、一般演題では実践報告を含む 24 演題の登録がありました。WEB 上で抄録での発表を行い、全体を通して、実践を研究に、また研究を実践へと繋げるサイクルの醸成が感じられる内容となっていたと思います。

本学術集会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の第一線で活躍されている看護職の皆様の、安全と健康を守りつつ、より多くの方々にご参加頂けるよう、オンデマンド動画配信を取り入れた WEB 開催を実施いたしました。直接的な意見交換や交流は叶いませんでしたが、多くの皆様にご参加頂き、本学術集会の開催が、皆様の研究・実践のさらなる発展の一助となったものと感じています。

最後になりましたが、第 25 回九州・沖縄地方会学術集会の開催にあたり、多大なご協力・ご支援を賜りました日本看護研究学会九州・沖縄地方会会長の楠葉洋子先生をはじめ関係者の皆様、そして初めての WEB 開催にもかかわらず、諸々の変更にもポジティブな姿勢で対処していただいた企画委員・実行委員の皆様に心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

一般社団法人 日本看護研究学会 第 26 回九州・沖縄地方会学術集会ご案内

メインテーマ　　危機の時代　未来を切り開く力を育む

日本看護研究学会 第 26 回九州･沖縄地方会
学術集会長 三橋　睦子

この度のCOVID-19により亡くなられた皆様に哀悼の意を表しますとともに､様々な現場で医療を支える皆様、ご家族・ご友人の献身に心から敬意を表し感謝いたします。また、学生に寄り添い、新たな教育方法を模索し、ご尽力頂いております教育関係者の皆さまにも、敬意と感謝を表します。

日本看護研究学会　第26回九州・沖縄地方会学術集会を迎え学会テーマを、『危機の時代 未来を切り開く力を育む』としました。昨今の頻発する土石流や豪雨災害、未曾有の地震や津波災害、2019年12月に発生した新型コロナウイルス感染症のパンデミックなど、いずれも最前線の現場で業務に関われておられる看護職の献身的な看護実践なしでは乗り越えられるものではありません。こうした経験を大切に、時代の変化に備えるべく、それぞれの経験を共有する機会としたいと思います。

このような情勢の中で、皆さまの安全と健康を守りつつ、より多くの方々にご参加頂けるよう、オンデマンド動画配信を取り入れたWeb開催といたします。

会員の皆さま、多くの方々にご参加頂きますよう、企画員一同心よりお待ち申し上げております。

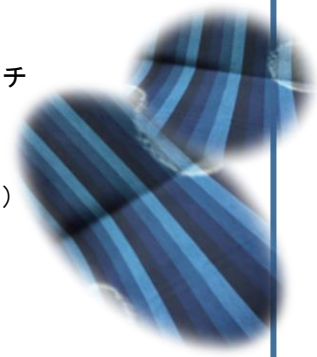
◆日 時 ：令和４年１月２９日（土）～２月１３日（日）
◆会 場 ：久留米大学医学部看護学科
◆開催方法 ：WEB によるオンデマンドとのハイブリッド開催
◆プログラム：学術集会長あいさつ　　三橋　睦子氏（久留米大学医学部 教授）

<u>プログラム１．特別講演</u>
テーマ「折れない心をつくる　一流を目指すための支援」
講　師　兒玉　久美　先生（南筑高等学校　柔道部「素根輝」コーチ

<u>プログラム２．シンポジウム</u>
テーマ「コロナ禍における健康危機管理を考える」
講　師　惠上　英昭　先生（久留米大学医療センター副院長・教授）
鶴田　来美　先生（宮崎大学医学部　教授）
沢畑　亨　先生（愛林館　館長）

<u>プログラム３．ランチョンセミナー</u>
テーマ「看護研究におけるダイバーシティーの可能性」
講　師　青木　浩樹　先生（久留米大学循環器研究所　教授）

<u>プログラム４．一般演題</u>（口演発表動画８分オンデマンド配信・示説発表データ（PDF）を会期中閲覧）



◆演題募集期間：令和３年１０月１日（金）～１１月３０日（火）１２：００まで
◆参加登録期間：令和３年１０月１日（金）～２月１３日（日）
◆参 加 費 ：２，０００円（筆頭演者・共同演者ともに参加登録が必要です）
◆学会ホームページ：http://jsnr26kyu.kenkyuukai.jp/
◆本学術集会ホームページ運営は「m3.com」を利用しており、演題登録や参加登録には「m3.com」のアカウント登録が必要です。詳しくは学術集会ホームページをご覧ください。
◆学術集会事務局 ：久留米大学医学部看護学科内
〒830-0003 福岡県久留米市東櫛原町 777-1
TEL 0942-31-7714(代表)　E-mail：jsnr26kyu@kurume-u.ac.jp